

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和5年11月28日
タイトル	疏水フォーラムin常西用水2023へ参加しました！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和5年10月30日（月）、31日（火）に富山県富山市において「疏水フォーラムin常西用水2023」が開催され参加しました。

このフォーラムは、疏水は農業用水のみならず生活用水などに利用し地域住民の憩いの場や動植物の生育空間となるなど多面的機能を発揮しており、国民共有の貴重な財産であることから広く国民に周知し疏水を将来に引き継いでいくことができるよう情報交換、情報発信等を行うことを目的に開催されています。

30日は、富山市の富山国際会議場で開催され、日本全国の水土里ネットから約700人が参加し、基調講演、講演、活動報告、パネルディスカッションが行われました。



講演を興味深くお聞きしました！



疏水の多様性についてディスカッション！

基調講演では、農林水産省農村振興局整備部水資源課長の瀧川拓哉氏が「疏水をとりにくく情勢について」と題して講演されました。食料・農業・農村施策の新たな展開方向や農業水利施設の維持管理に関する施策の変遷と今後など話され、農業従事者の高齢化や離農、人口減少に対応するため維持管理の電力化や省力化が必要になることを実感しました。

講演では、群馬県の水土里ネット天狗岩事務局長の磯田 靖氏が「都市化が進む地域における農業用水の維持管理について」と題して講演されました。急激な都市化や事業による冬期断水時の生活雑排水の流入により水質の悪化など、対策に苦慮しておられる事を時には会場が笑いに包まれるようなユーモアを交えてお話されました。水土里ネット福山でも都市化が大きな課題となっていることから、興味深くお聞きしました。

活動報告では、水土里ネット常西用水事務局長の水谷英二氏が「常西用水の維持管理活動について」と題して報告されました。常西用水は、国内屈指のあばれ川を克服され日本最古の大規模合口用水で令和2年に世界かんがい施設遺産に登録されています。雄大な自然と先人のご苦労をお聞きし、翌日の現地研修が楽しみになりました。パネルディスカッションは、コーディネーターに上智大学グローバル教育センター教授の杉浦未希子氏、パネリストに水土里ネット常西用水理事長の中川忠昭氏が登壇され「都市地域の疏水の保安全管理を考える」をテーマに行われました。

市街化が急速に進展し施設の管理が難しくなっていることや治水のための維持管理費について、行政との連携の必要性や小学生に土地改良区が疏水の歴史や重要性、用水に携わった地域の偉人を紹介するなど「水を守る教育」が大事になるなど、様々なお話を聞くことができました。

31日は、常西合口用水を現地視察しました。

朝、富山駅へ集合し、バス数台に分かれて横江頭首工、左岸連絡水路橋、常西合口幹線水路、新庄排砂水門を視察しました。

常願寺川流域は、戦国時代末期より雄大な立山連峰から流れる水豊かな常願寺川の東西に見事な水路網を築き、加賀百万石繁栄の礎になったものです。

しかし、安政の大地震により「山津波」が発生し常願寺川流域に甚大な被害をもたらしました。その後、明治、大正の60年間に46回もの洪水に見舞われ大幅な改修が必要となり、日本で初めてとなる複数の取水口をひとつにする「合口事業」が施行されました。

横江頭首工は、大規模な施設と豊かな水量に圧倒されました。大きな石がゴロゴロ転がっているところを見て、豊かな水量は「あばれ川」と表裏一体なのだ実感しました。

左岸連絡水路橋、常西合口幹線水路、新庄排砂水門を見学し、どこを見ても轟々と用水が流れていました。

常願寺川の鎮静や禍に遭われた先人達の鎮魂、流域の平和と五穀豊穡を祈念し建立された「常西水神社」を視察した際には、隧道に「澤無涯」の銘板があり「うるおい限りなし」という意味とお聞きし感嘆しました。

昭和16年に建立されてから大きな災害が起きていないと伺い、参加者みんなで手を合わせました。



常願寺川があばれませんように！

今回の研修では、疏水が地域の歴史や産業などの礎となっていることや日々の暮らしに役立っていること、そして治水にも大きな役割を担っていることを学びました。

この学びを今後の取り組みに活かし、水土里ネット福山でも、疏水や土地改良施設の重要性や治水について地域に発信していきたいと思います。